

証券コード：6469



株式会社 **放電精密** 加工研究所

2026年2月期
決算説明会資料

2026年4月16日

■ 本資料のポイント	…P.3	■ 中期経営計画2027の進捗	…P.12～
■ 2026年2月期決算概要		■ 各事業の進捗	…P.17～
□ 2026年2月期 決算概要（連結）	…P. 4	■ 2027年2月期通期業績予想および株主還元について	…P.26～
□ 2026年2月期 利益の変動要因	…P. 5		
□ 事業概要	…P. 6		
□ 2026年2月期 セグメント別概要	…P. 7～		
□ 連結貸借対照表とCFの状況	…P. 11		

- **別紙①：2026年2月期決算補足資料**
- **別紙②：企業概要について**

2026年2月期 連結業績の総括

- ◆ **売上高 14,312百万円 前年同期比 11.0%増**
 - 過去最高を更新、放電加工・表面処理セグメントを中心に売上高は好調に推移
- ◆ **営業利益 1,122百万円 前年同期比 63.0%増**
 - 過去最高益を更新、増収および価格改定の効果による利益率の改善
- ◆ **親会社株主に帰属する当期純利益 823百万円**

中期経営計画2027 の進捗について

- ◆ **2年目は、1年前倒しで営業利益の目標を達成**
 - 需要への機動的な対応と利益創出体制の構築が一段と進展し、3年連続増収増益
- ◆ **最終年度は、航空機エンジン部品・ガスタービン部品への投資を加速**
 - 想定を上回る需要増への対応として、積極的な投資を見込む

2027年2月期 通期業績予想

- ◆ **強い需要を背景に営業利益は最高益を予想**
 - 中期経営計画2027の最終年度目標を上方修正
 - 引き続き放電加工・表面処理が業績牽引、売上高・営業利益ともに増加を見込む

2026年2月期 決算概要 (連結)

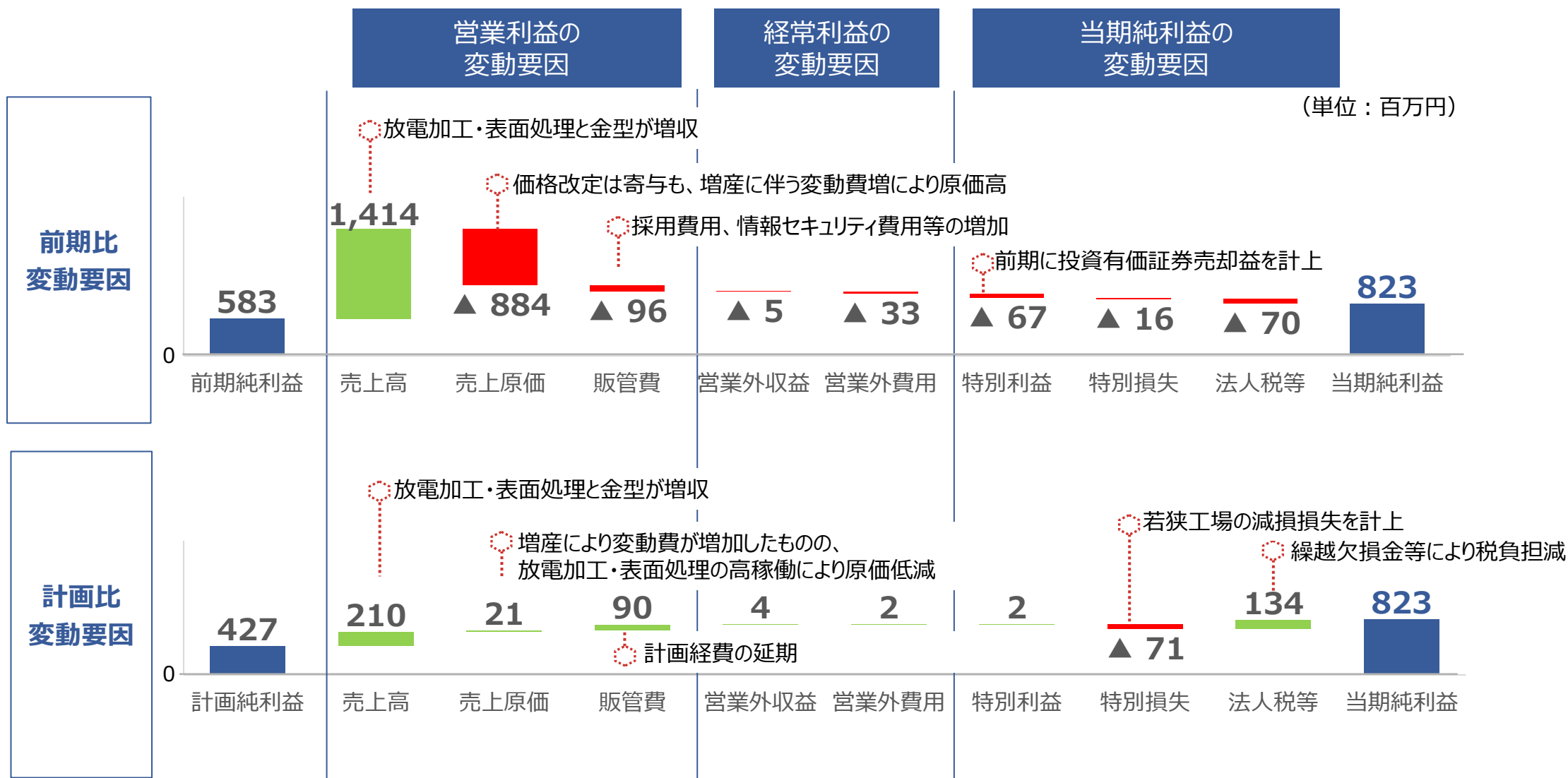


(単位：百万円)

	25年2月期 実績	26年2月期 計画※	26年2月期 実績	前期差 増減	計画差 増減
売上高	12,898	14,101	14,312	+1,414	+210
売上原価	9,801	10,707	10,686	+884	▲21
売上総利益	3,096	3,394	3,626	+530	+232
販管費	2,407	2,594	2,503	+96	▲90
営業利益	689	800	1,122	+433	+322
営業外損益	▲45	▲91	▲84	▲38	▲7
経常利益	643	708	1,038	+394	+330
特別損益	▲9	▲25	▲94	▲84	▲68
税金等調整前 当期純利益	634	682	944	+310	+261
法人税等	28	236	92	+63	▲144
当期純利益	605	446	852	+246	+405
非支配株主に帰属する 当期純利益	22	19	29	+7	+10
親会社株主に帰属する 当期純利益	583	427	823	+239	+395

※26年2月期計画：25年10月2日公表 業績予想

2026年2月期 利益の変動要因



※26年2月期計画：25年10月2日公表 業績予想

※純利益：親会社株主に帰属する当期純利益
 ※法人税他：法人税等および非支配株主に帰属する当期純利益

放電加工・表面処理

- 航空・宇宙 ~ 航空機エンジン部品、防衛装備品
- 交通・輸送 ~ 自動車表面処理部品
- 環境・エネルギー ~ ガスタービン部品



金

型

- 住宅 ~ アルミ押出用金型
- 交通・輸送 ~ セラミックスハニカム押出用金型



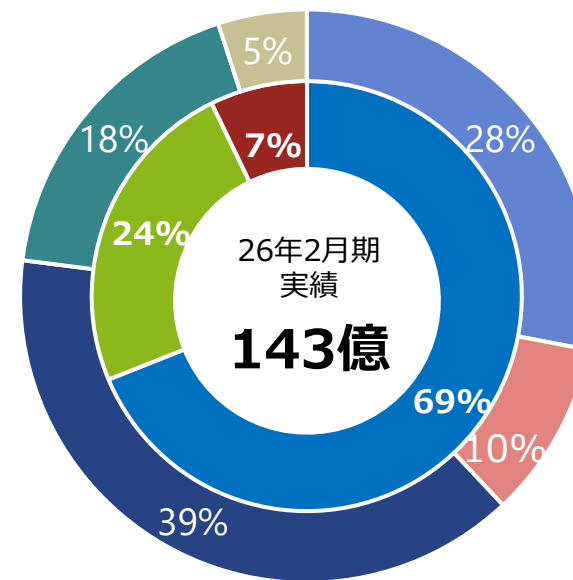
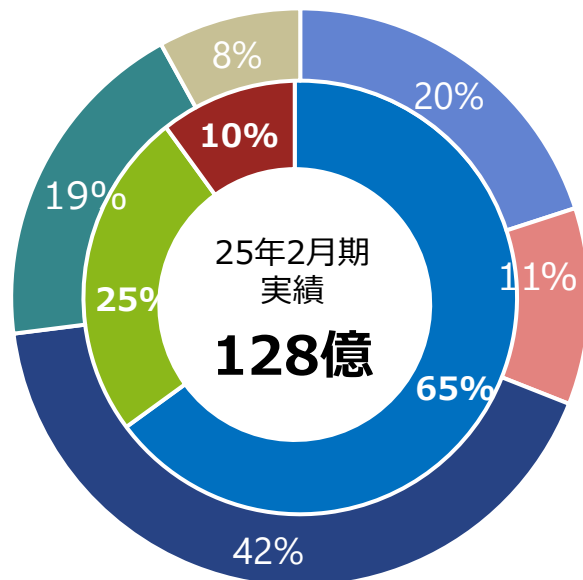
機械装置等

- 機械設備 ~ プレス機・プレス付帯設備
- 交通・輸送 ~ 自動車関連プレス部品



セグメント別/事業分野別売上構成比率 (連結)

セグメント別 ■ 放電加工・表面処理 ■ 金型 ■ 機械装置等



事業分野別 ■ 航空・宇宙 ■ 交通・輸送 ■ 環境・エネルギー ■ 住宅 ■ 機械設備

2026年2月期 セグメント別概要



(単位：百万円)

		25年2月期 実績	26年2月期 計画※	26年2月期 実績	前期差 増減	計画差 増減
売上高	放電加工・表面処理	8,341	9,552	9,906	+1,565	+353
	航空・宇宙	2,611	3,768	4,030	+1,419	+262
	交通・輸送	323	363	354	+30	▲8
	環境・エネルギー	5,406	5,421	5,521	+114	+100
営業利益		1,441	1,717	2,025	+583	+307
売上高	金型	3,318	3,354	3,367	+48	+12
	住宅	2,469	2,495	2,582	+112	+86
	交通・輸送	848	859	784	▲64	▲74
営業利益		333	295	297	▲35	+2
売上高	機械装置等	1,238	1,194	1,039	▲199	▲155
	機械設備	966	816	710	▲256	▲105
	交通・輸送	271	378	328	+57	▲49
営業利益		36	97	33	▲2	▲63
全社費用		▲1,122	▲1,310	▲1,233	▲110	+76
全社	売上高	12,898	14,101	14,312	+1,414	+210
	営業利益	689	800	1,122	+433	+322

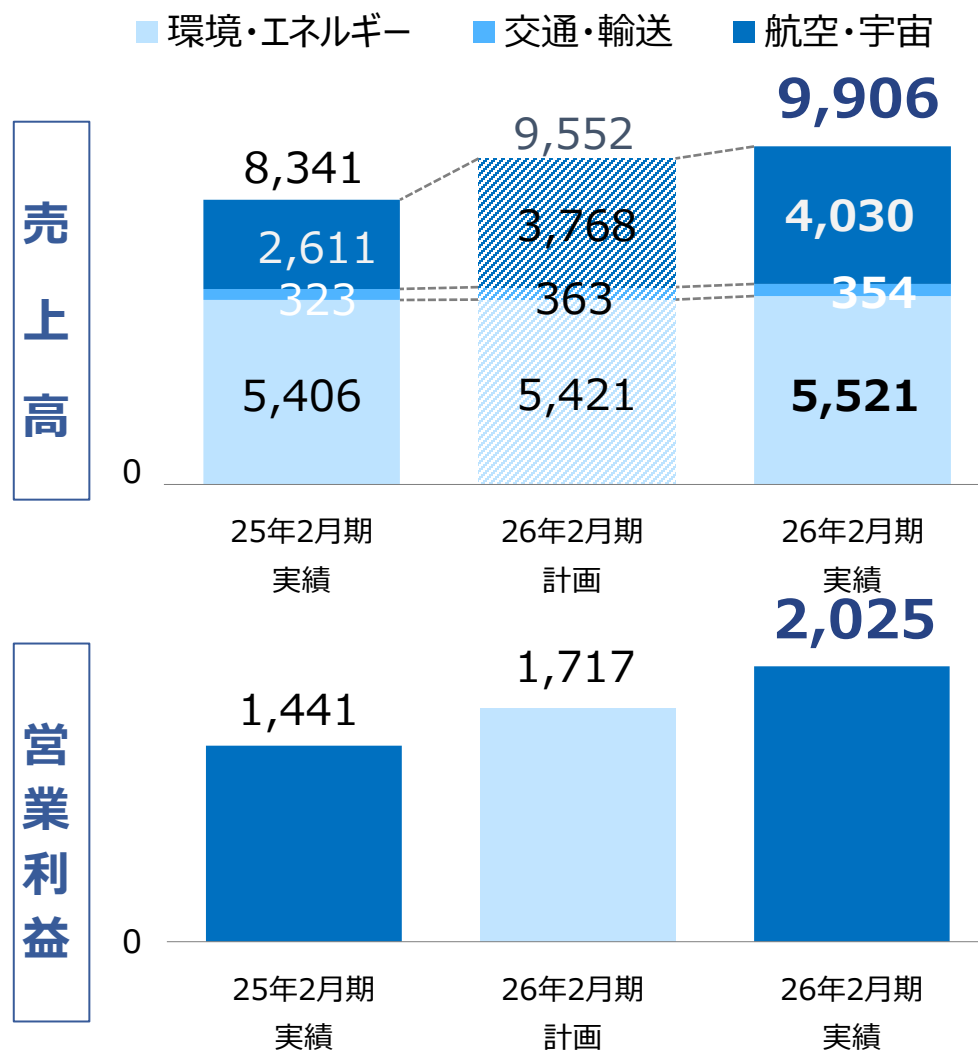
※1 26年2月期計画：25年10月2日公表 業績予想

※2 セグメント間の組替：25年3月より放電加工・表面処理セグメントの環境事業の一部を機械装置等セグメントへ移管しております。これに伴い前期の数値も変更しております。

セグメント別詳細：放電加工・表面処理



(単位：百万円)



前期比 増収・増益

売上高：8,341 ⇒ **9,906** (+1,565)

営業利益：1,441 ⇒ **2,025** (+583)

売上高増減要因 (前期比 / 計画比)

□航空・宇宙(↑ / ↑)

- ◇前期比は、航空機エンジン部品および防衛装備品の需要の増加により増収。
- ◇計画比は、航空機エンジン部品はサプライチェーン上流の遅延影響があるものの航空宇宙関連部品および防衛装備品の需要増加により増収。

□交通・輸送(↑ / ↓)

- ◇前期比は、自動車表面処理部品が需要増加により増収。
- ◇計画比は、自動車表面処理部品の生産が想定を下回り減収。

□環境・エネルギー(↑ / ↑)

- ◇前期比は、遠心圧縮機部品の石油・ガス産業における精製需要の増加およびガスタービン部品が前倒し出荷を実施し増収。
- ◇計画比は、ガスタービン部品および遠心圧縮機部品の需要増加により増収。

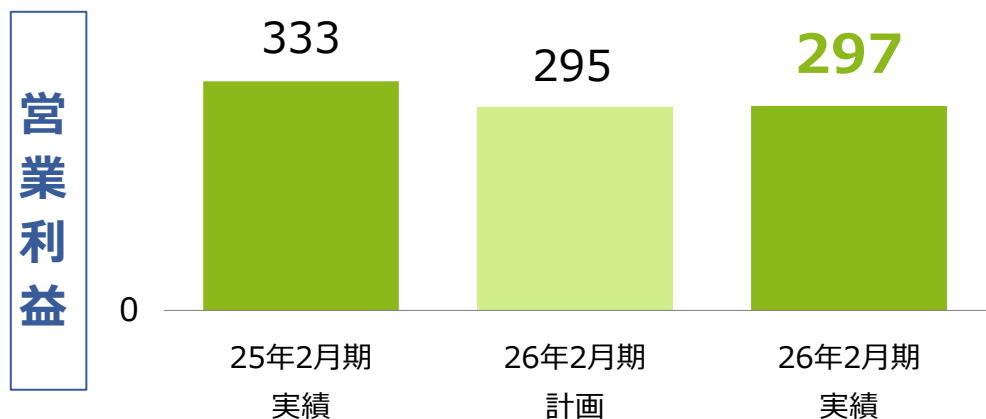
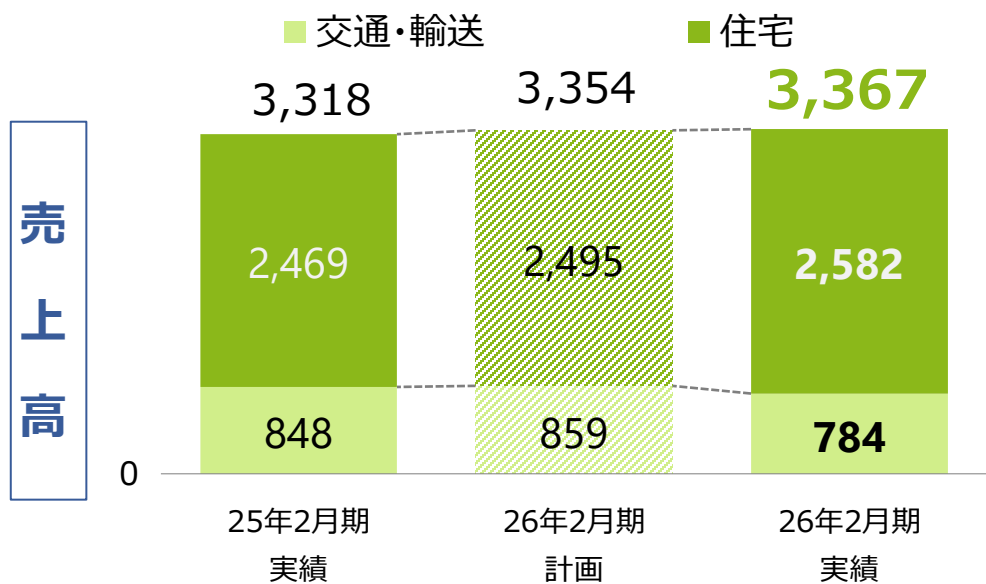
営業利益増減要因 (前期比 / 計画比)

□(↑ / ↑)

- ◇前期比は、増収に加え、遠心圧縮機部品の生産性向上および前期に実施した価格改定の効果により増益。
- ◇計画比は、ガスタービン部品や防衛装備品の高稼働による原価低減効果が寄与。採用計画未達による人件費の減少や修繕計画の延期等により増益。

※セグメント間の組替：2025年3月より放電加工・表面処理セグメントの環境事業の一部を機械装置等セグメントへ移管しております。これに伴い前期の数値も変更しております。

(単位：百万円)



前期比 増収・減益

売上高： 3,318 ⇒ **3,367** (+48)
 営業利益： 333 ⇒ **297** (▲35)

売上高増減要因 (前期比 / 計画比)

□ 住宅 (↑ / ↑)

◇前期比・計画比ともに、国内向けアルミ押出用金型が省エネ基準適合義務化に伴う駆け込み需要の反動の影響により減収も、海外子会社の需要が増加し、増収。

□ 交通・輸送 (↓ / ↓)

◇前期比・計画比ともに、セラミックスハニカム押出用金型における大型製品の受注が減少し、減収。

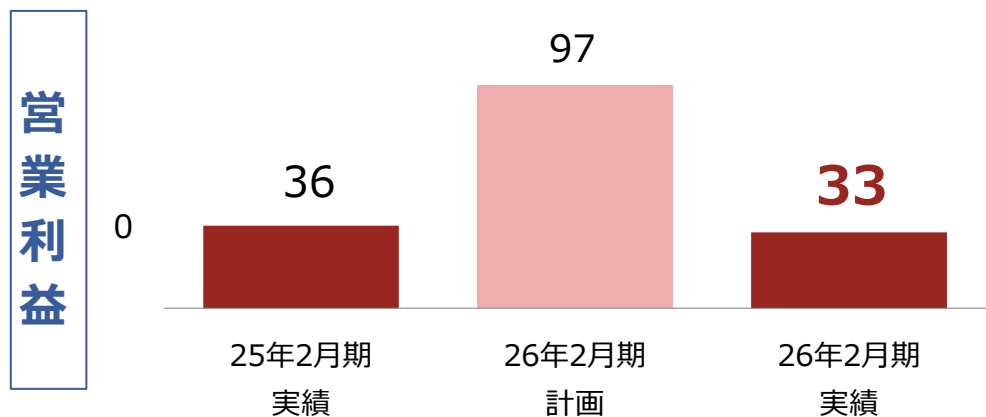
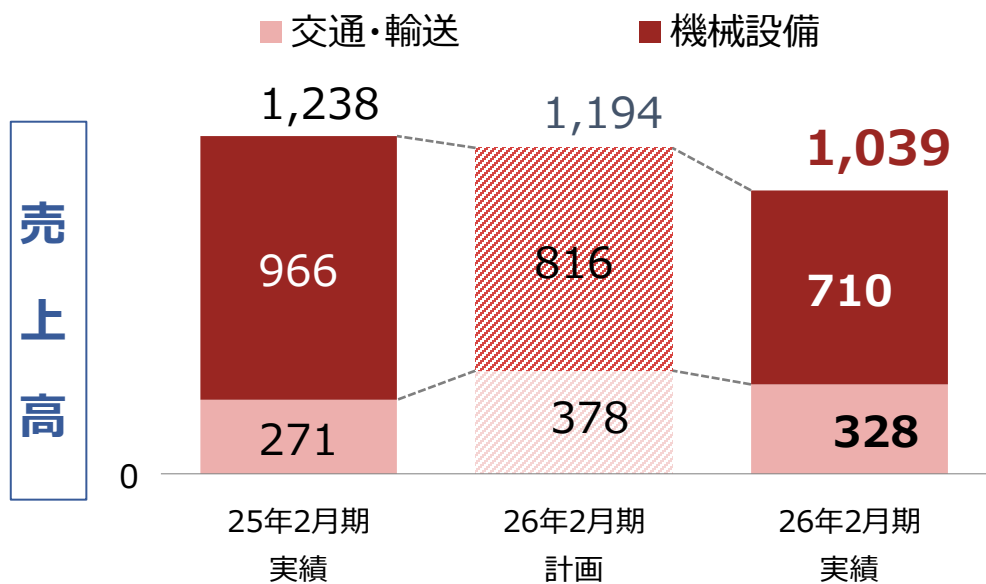
営業利益増減要因 (前期比 / 計画比)

□ (↓ / →)

◇前期比は、国内向けアルミ押出用金型の減収により減益。

◇計画比は、修繕費などの計画経費の見直しにより、おおむね計画通りに進捗

(単位：百万円)



前期比 減収・減益

売上高： 1,238 ⇒ **1,039** (▲199)
 営業利益： 36 ⇒ **33** (▲2)

売上高増減要因 (前期比 / 計画比)

□ 機械設備 (↓ / ↓)

- ◇前期比は、プレス機の販売は増加したものの、プレス機付帯設備やMF混合溶融装置等の販売が減少し、機械設備全体では減収。
- ◇計画比は、プレス機のシェアリングサービスにおいて案件獲得の未達および付帯設備の販売減少により減収。

□ 交通・輸送 (↑ / ↓)

- ◇前期比は、自動車関連プレス部品の価格改定により増収。
- ◇計画比は、自動車関連プレス部品の生産が想定を下回り減収。

営業利益増減要因 (前期比 / 計画比)

□ (→ / ↓)

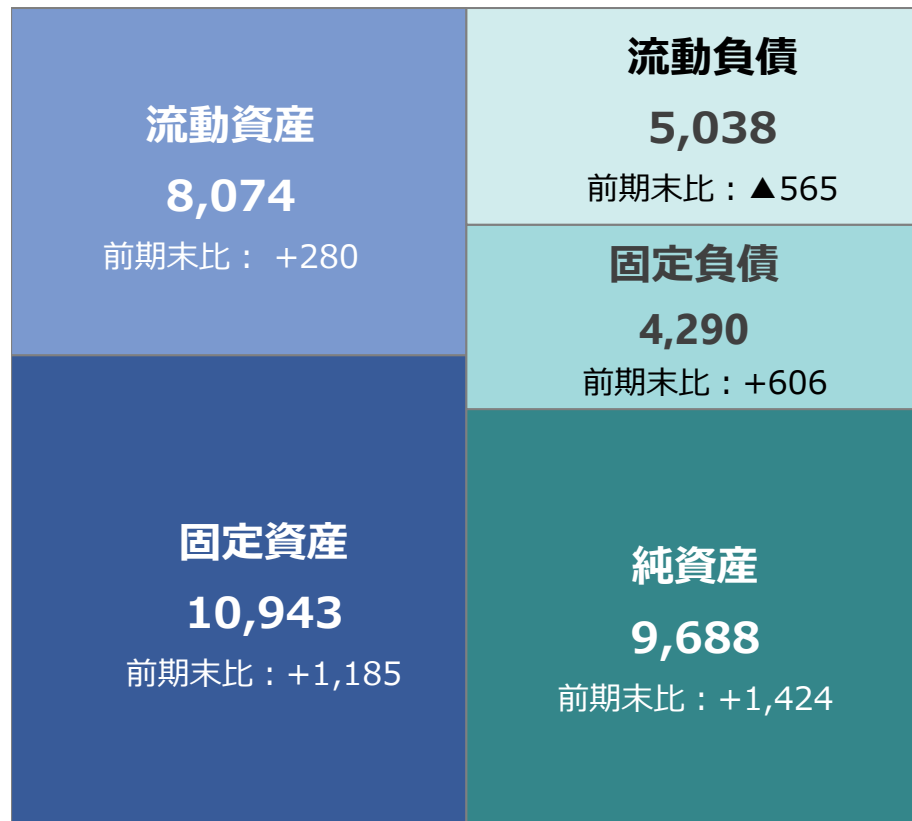
- ◇前期比は、自動車関連プレス部品が価格改定の効果により採算は改善したものの機械設備の減収により微減。
- ◇計画比は、減収により減益。

※セグメント間の組替：2025年3月より放電加工・表面処理セグメントの環境事業の一部を機械装置等セグメントへ移管しております。これに伴い前期の数値も変更しております。

純資産の増加と固定資産拡充で成長基盤を強化

連結貸借対照表

(単位：百万円)

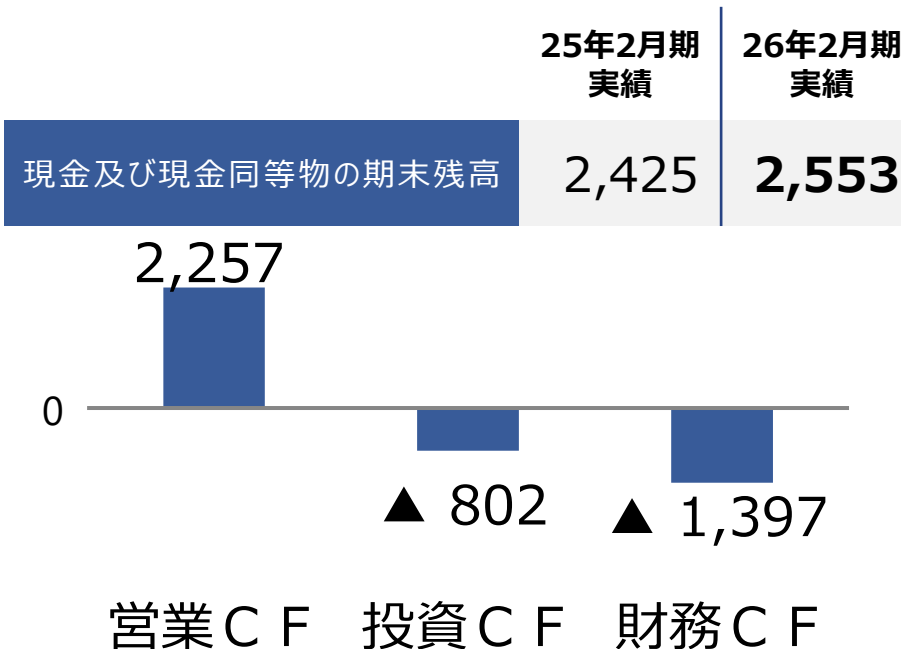


資産の部

負債純資産の部

キャッシュ・フロー

(単位：百万円)



自己資本比率

2026年2月期： 45.7%
 2025年2月期： 41.9%



中期経営計画2027の進捗

改革 推進

- 成長への組織改革と人的資本投資の推進および体制の整備

収益 基盤

- 事業ポートフォリオの再設定、リソースの有効活用と効率化を促進
- 標準化と自動化による全社の業務改革を推進

成長 基盤

- 海外展開を拡大し、成長事業の国際競争力を強化
- 長期ビジョンを背景とした技術開発への取り組みを強化

経営 基盤

- ESG経営の体制構築とサステナビリティへの取り組みを推進
- ステークホルダーから安心・信頼される健全経営の推進、相互関係を強化

改革推進

本社横断体制で重点PJを推進

成長分野の投資計画の支援やコスト意識の定着を進めるなど収益基盤の強化を継続

人的資本への投資

三菱重工との提携を通じた技術者派遣の受け入れや、業界の経験豊かな人員を登用し、即戦力を確保

持続的成長のための社内環境整備

健康経営優良法人認定の取得に向け、各種施策を推進(2026年3月取得)

収益基盤

価格の適正化/コスト管理強化

物価高騰で採算が低下した案件の価格改定や調達コストの管理強化を推進

業務の標準化

全社の業務改善や自動化などの工法見直しによる効率性を追求

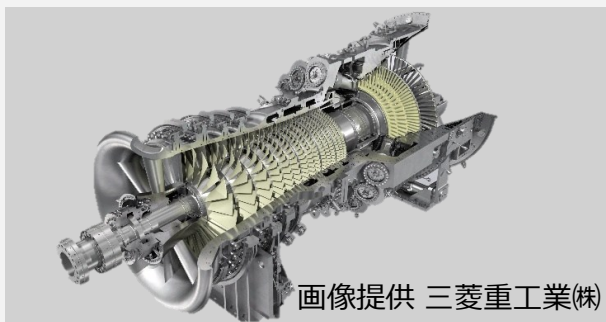
固定費の最適化

横浜工場を大和事業所へ集約し、効率性を向上。環境用途へ技術開発を推進

事業機会と収益性

成長事業へ：需要へ対応、業績牽引

環境・エネルギー分野



- <アイテム>
- ガスタービン部品
 - 遠心圧縮機部品

航空・宇宙分野



- <アイテム>
- 航空機エンジン部品
 - 防衛装備品

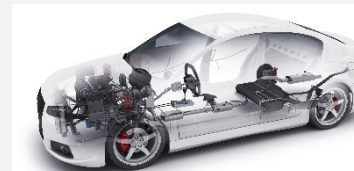
安定事業へ：・効率化推進



住宅分野

- <アイテム>
- 住宅アルミサッシ押出用金型

再成長へ：新分野での機会創出



- #### 交通・輸送分野
- <アイテム>
- セラミックスハニカム押出用金型



- #### 機械設備分野
- <アイテム>
- デジタルサーボプレス機

◆収益基盤の安定維持を継続

- 業務の標準化、生産の自動化・省人化で生産効率性を追求
- 徹底したコスト管理による経費の効率化を維持継続

◆成長分野は先行投資の回収がスタート

- 航空機エンジン部品と防衛装備品は、スケールメリットによる収益性向上
- ガスタービン部品は、下期後半より投資回収を開始

◆三菱重工業株式会社との資本業務提携によるシナジー効果創出

- 航空機エンジン部品の当初想定を上回る増産ニーズへ対応

◆次の成長を見据えた活動

- 環境・エネルギー分野において新規事業化に向けた活動を開始



各事業の進捗について

当社が関与する分野は二極化が進む、追い風となる事業分野は強い需要が継続

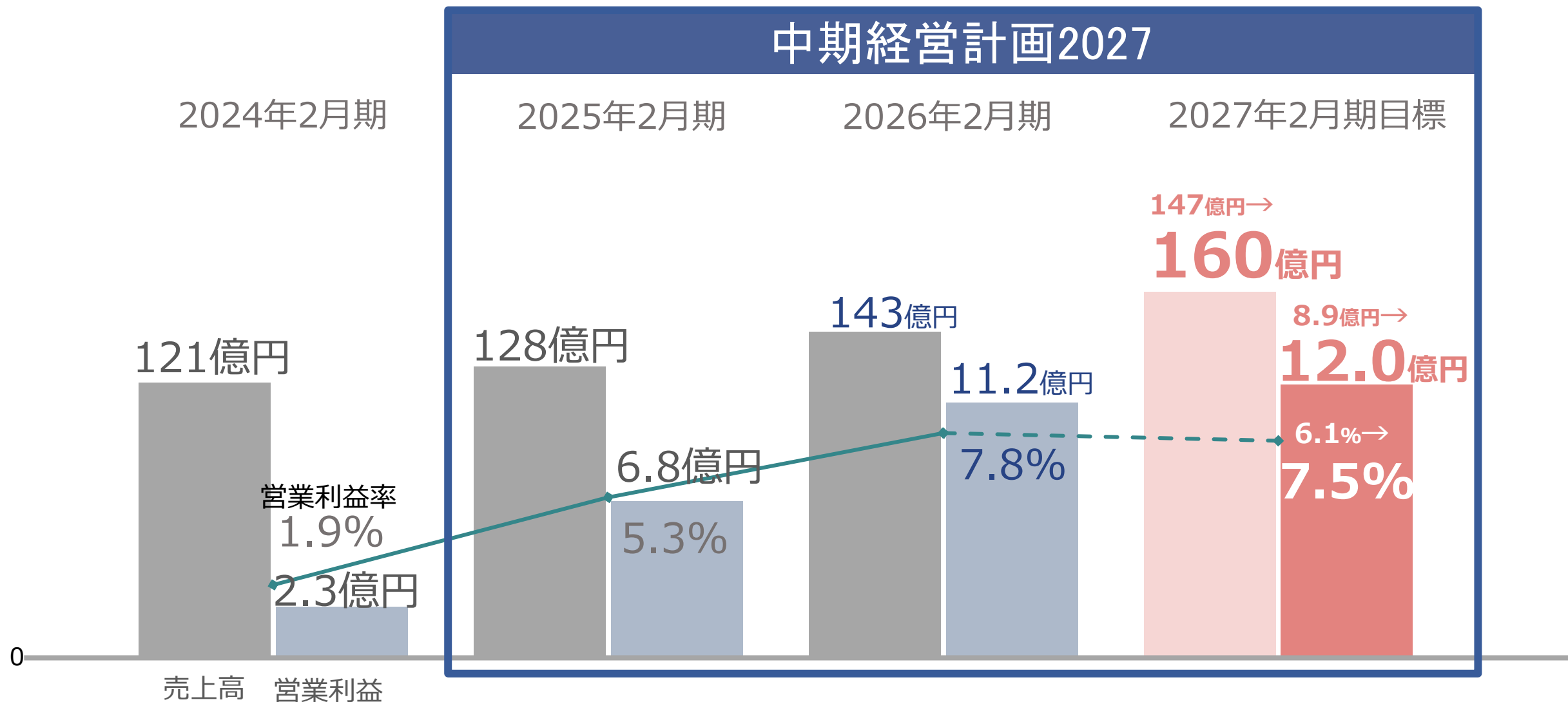
事業分野	主なアイテム	方向性（●機会 ■リスク）	
環境 エネルギー	ガスタービン部品	堅調	<ul style="list-style-type: none"> ○AI普及を背景にデータセンターの新增設に伴う電力需要が旺盛 ○電力を安定かつ高効率に供給する天然ガス火力発電の需要継続 ○地政学的リスクを起因とするエネルギー供給リスクに対し既存設備の燃料多角化
航空・宇宙	航空機エンジン部品 航空宇宙関連部品 防衛装備品	堅調	<ul style="list-style-type: none"> ○新興国の経済成長に伴う旅客需要や物流構造の変化による貨物需要を背景に航空機需要が伸長 ○燃費性能を追求した機材の更新需要を背景に航空機エンジン需要継続 ○安全保障強化の方針を受け、防衛力整備計画が大幅拡充
機械設備	デジタルサーボプレス機 プレス付帯設備 MF混合溶融装置	ゆるやかに 増加	<ul style="list-style-type: none"> ○物価高騰が長期化、一方で生産効率を目的とした補助金が投資を後押し ○半導体・次世代電池向けなど投資需要が増大 ○社会要請を背景としたプラスチックの循環利用実現への期待高まり ○環境価値の高い製品開発が加速
住宅	アルミ押出用金型	横ばい	<ul style="list-style-type: none"> □省エネ法の反動減から緩やかに回復も、金利上昇など構造的要因が継続 □中国経済の低調を背景に住宅需要は低水準を継続
交通・輸送	セラミックスハニカム押出用金型 自動車関連プレス部品 自動車表面処理部品	横ばい	<ul style="list-style-type: none"> ○足元では排ガス規制を背景に内燃機関車の低炭素化が継続 □中東情勢や米国関税政策の影響で自動車業界の設備更新需要が低調 □電動化により生産品目に変化、既存部品の需要減少

中期経営計画2027業績推移



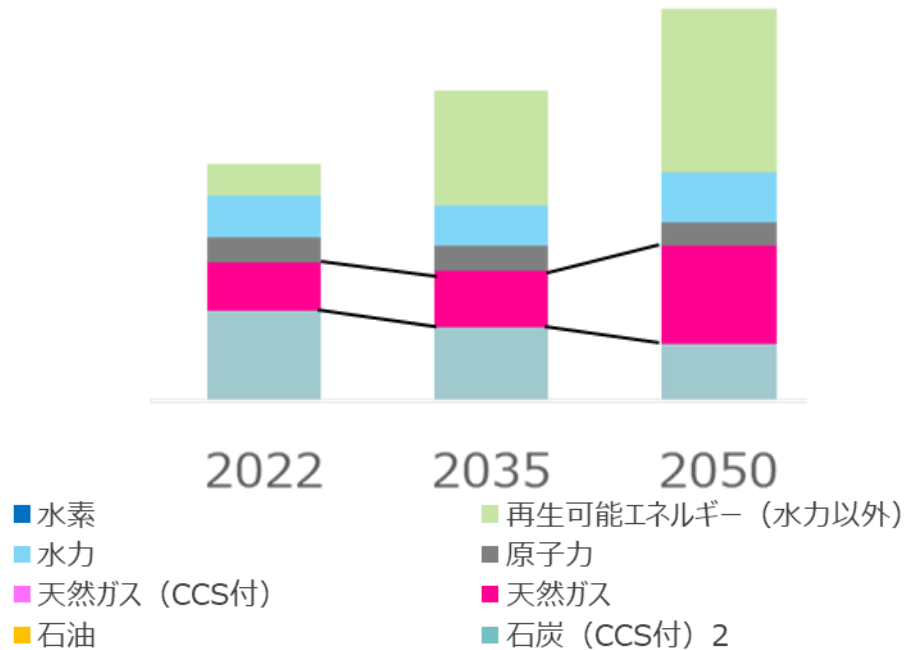
収益性を重視した施策により営業利益は最終目標の8.9億円※を1年前倒しで達成

※2027年2月期目標の8.9億円は2024年4月9日に公表した数値です。



事業機会認識

世界の発電設備と電力量予測



出所：日本エネルギー経済研究所

- ✓ 安定かつ効率的に電力を供給する天然ガス火力発電は堅調
- ✓ 再エネへ移行後は、バックアップ電源として天然ガス火力発電は需要継続
- ✓ 当社既存技術で水素混燃などカーボンニュートラルへの対応も可能

事業の方向性

■ ガスタービン部品

<売上拡大>

- ・生産能力増強（生産ライン増設と再構築で生産性向上）
- ・国内および海外の主要顧客との連携強化
- ・メンテナンスサービスの拡大

<収益基盤強化>

- ・既存製品と新規生産ライン立上げを両立させるため生産管理体制を強化

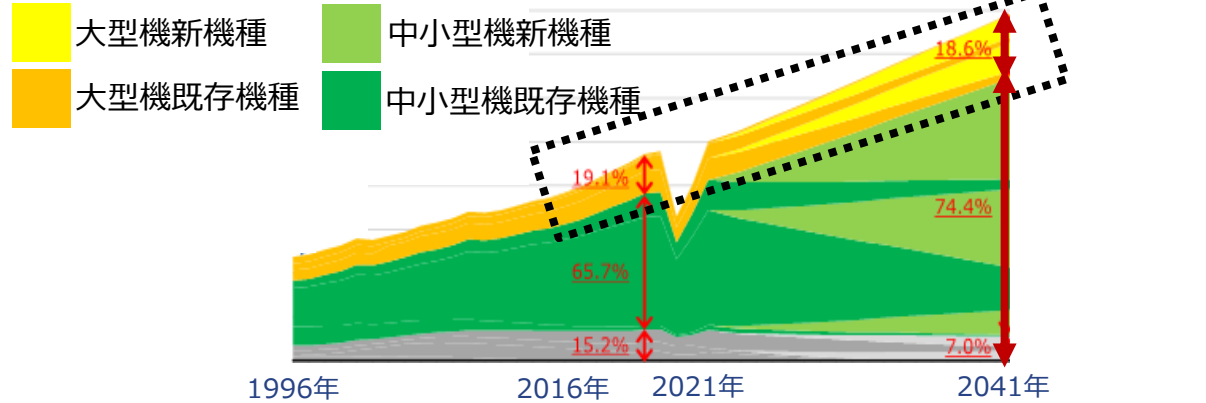
今後の活動

■ ガスタービン部品は量産フェーズへ移行

- ・工程の立ち上げと段階的な生産開始
- ・業界の経験が豊富な人員を登用し即戦力確保
- ・増産に向けた生産管理体制の構築
- ・リードタイム短縮に向けた工法開発

事業機会認識

<航空分野>



出展：一般財団法人日本航空機開発協会資料

- ✓ 燃費性能に優れる機種への入れ替えやメンテナンス需要が増加傾向
- ✓ 航空機部品業界は供給網を盤石化し需要への対応を強化

<防衛分野>

防衛予算 27兆円 → 43兆円

(2019~23年度) (2023~27年度)

出展：財務省ホームページ「中期防衛力整備計画」より

- ✓ 2023年度予算では防衛力整備事業費を大幅に増額
- ✓ 効率的で持続可能な装備品サプライチェーン構築を推進

事業の方向性

■ 航空機エンジン部品

<売上拡大>

- ・既存および新規エンジン部品の増産対応

<収益基盤強化>

- ・生産量増加への対応

■ 防衛装備品

- ・既存アイテムの需要増加への対応

今後の活動

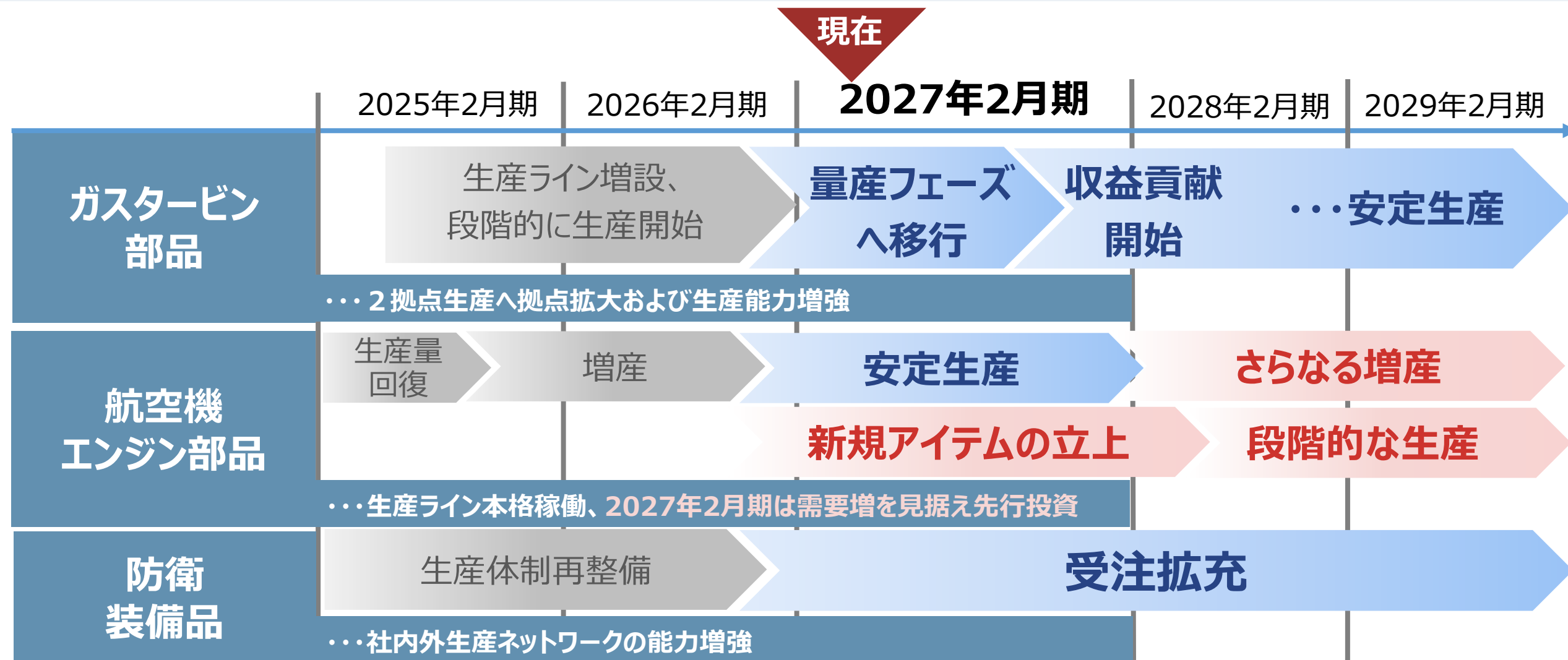
■ 増産対応と次の中計を見据えた生産体制の構築

- ・業界の経験が豊富な人員を登用し即戦力確保
- ・防衛装備品のサプライチェーンの強化
- ・航空機エンジン部品の生産ライン増設

■ 健全な収益基盤の拡大

- ・燃料コスト上昇などを加味した適正価格を維持・継続

今期、ガスタービン部品は収益貢献開始、航空機エンジン部品は需要増へ対応

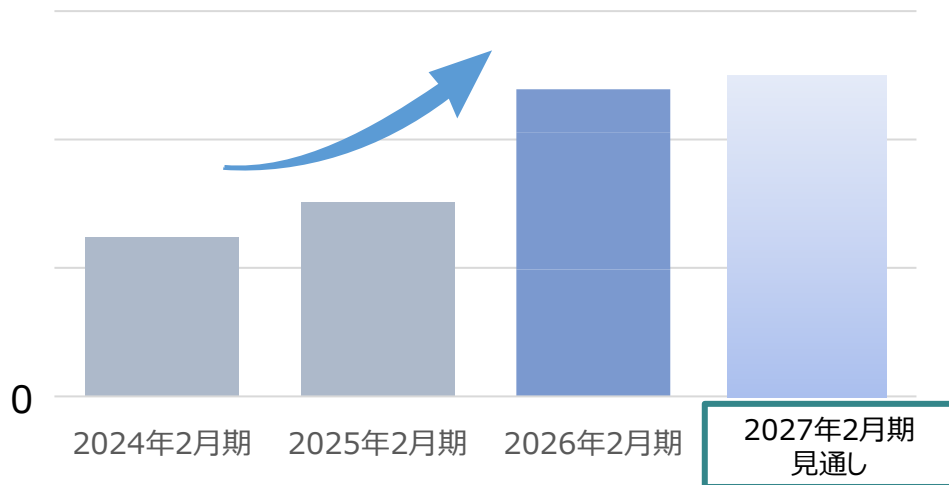


成長事業の受注高・売上高・営業利益 成長イメージ

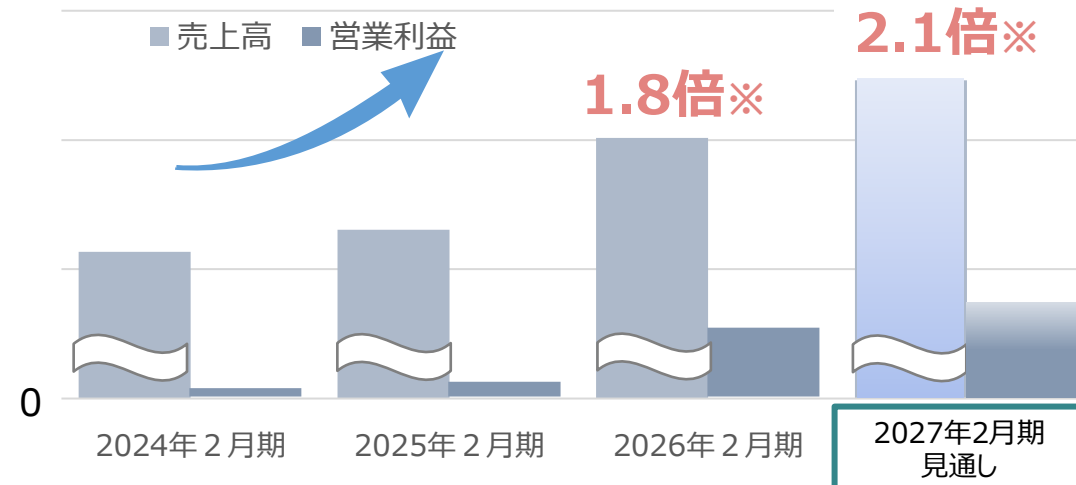


航空・宇宙分野

受注高

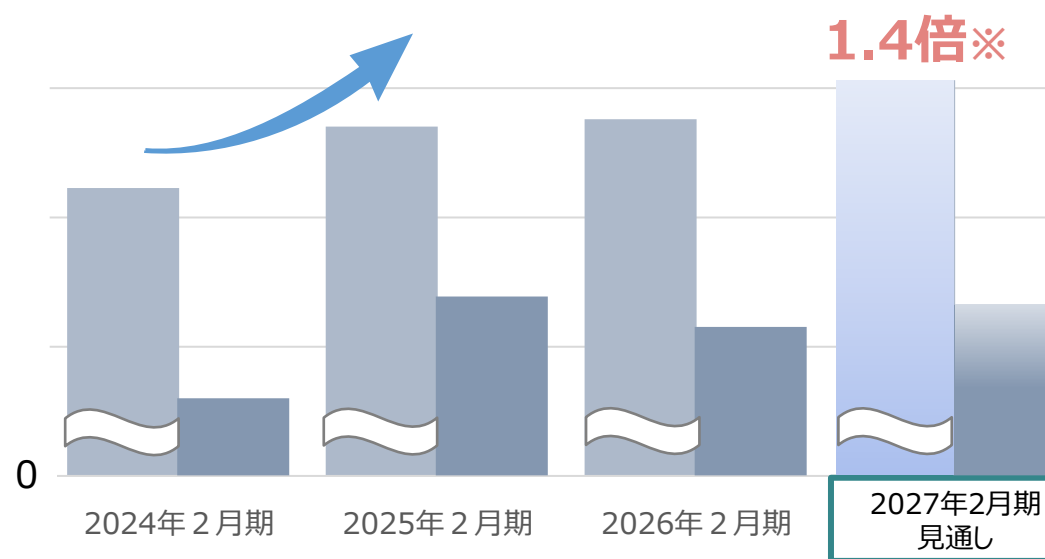
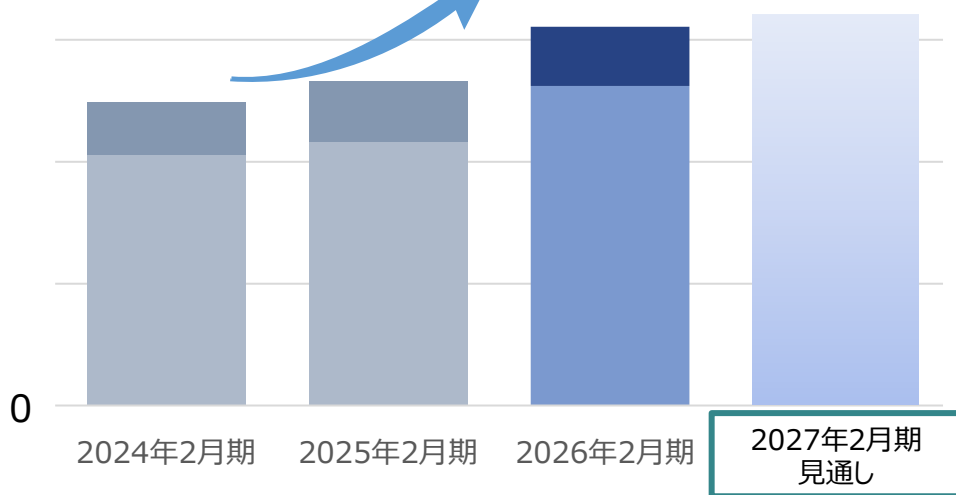


売上高・営業利益



環境・エネルギー分野

■ガスタービン部品 ■遠心圧縮機部品



※2024年2月期実績に対する倍率です。

合理化追求で安定収益化、および優位性を活かした新分野での技術貢献

アルミ押出用金型

先進的なデジタル技術を活用し工法転換

- ・大幅な工程短縮を実現する生産技術の開発
- ・需要に合った体制を維持継続し業績へ寄与

新工法による採算改善

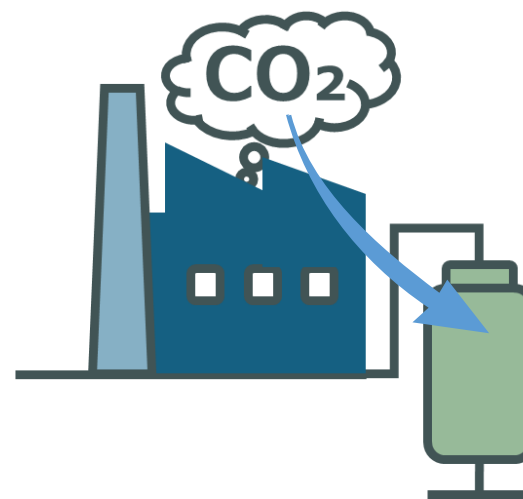


高品質で高機能なものづくりへ貢献

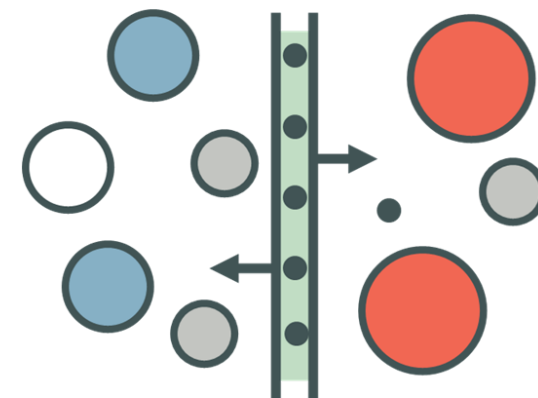
セラミックスハニカム押出用金型

CO₂回収・分離など新たな市場への展開

- ・専門設備の開発や工法の見直し
- ・顧客とともに技術の実証を推進



CO₂回収

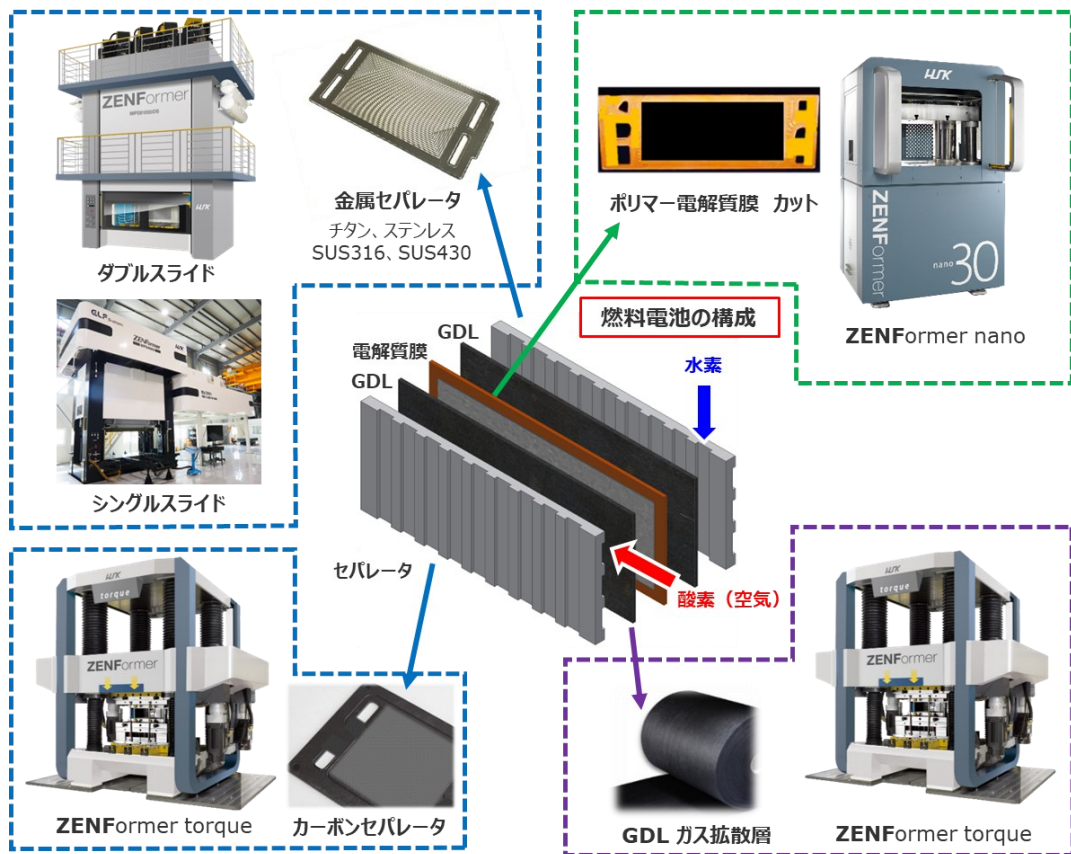


ガス分離

技術力を結集し、顧客の課題へ幅広く対応する装置ビジネスへ

環境負荷低減に向けた製品開発へ貢献

- 新たな素材に対応した最適な工法の開発
- 遠隔支援サービスを実装し、新たな需要開拓を推進



資源循環型社会に向けた活動を推進

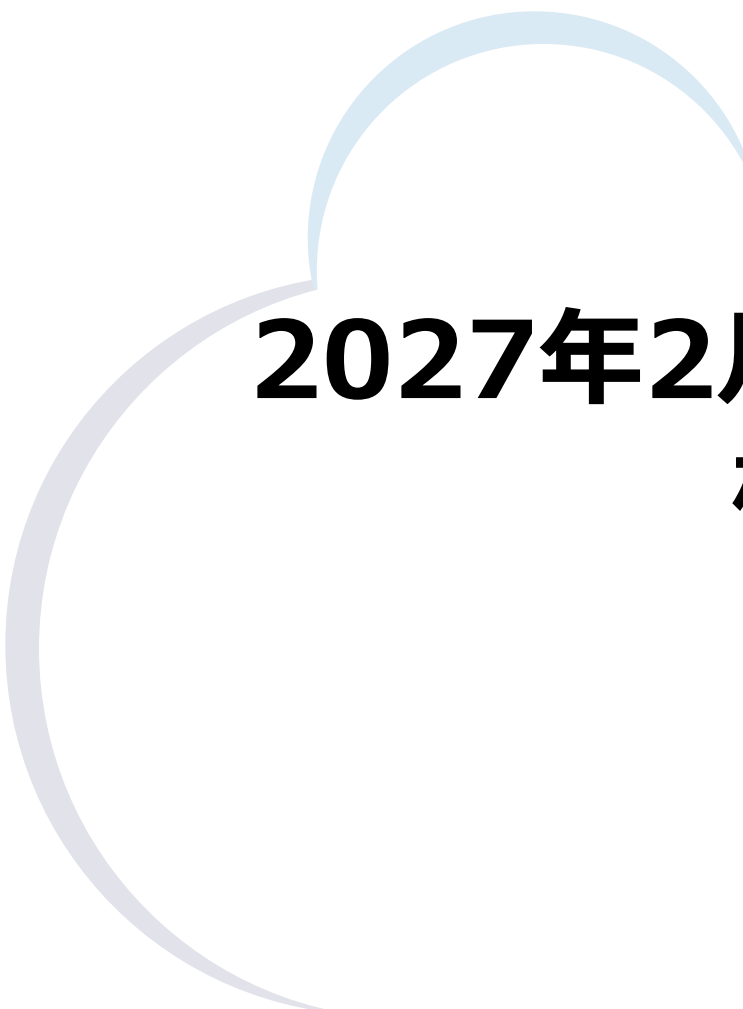
- 産学官連携・高度マテリアルリサイクル研究会と難処理プラスチックの再生や食品残渣の社会課題へ提案



かながわSDGsパートナー連携取組み

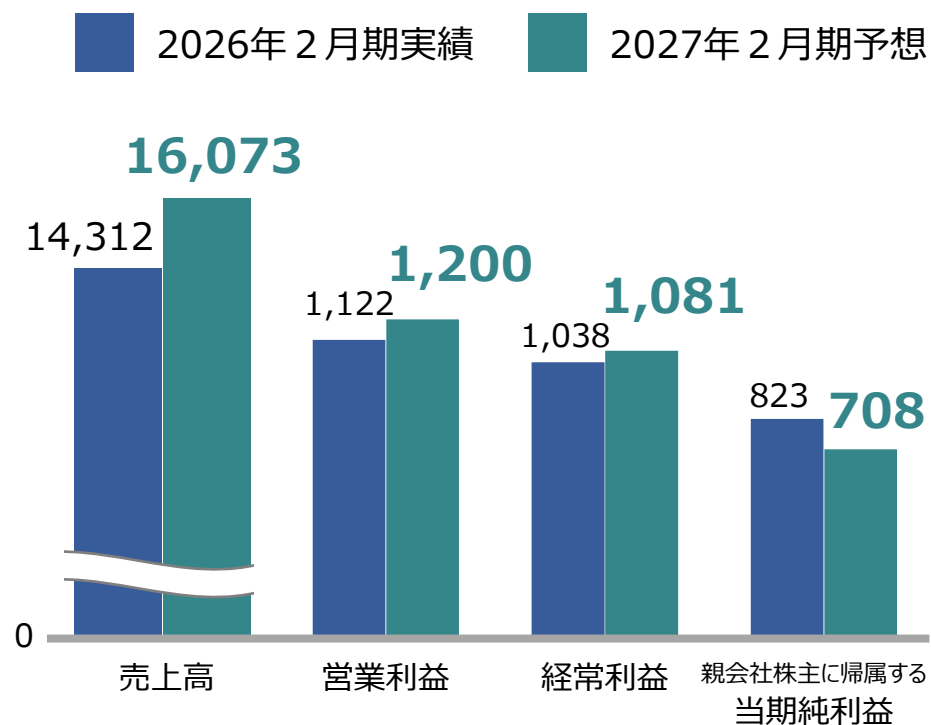


神奈川県県内間材等の製材所で発生するおが屑を活用したバイオマスプラスチックを素材とするコースターを開発



2027年2月期通期業績予想および 株主還元について

2027年2月期通期業績予想 (連結)



(単位：百万円)

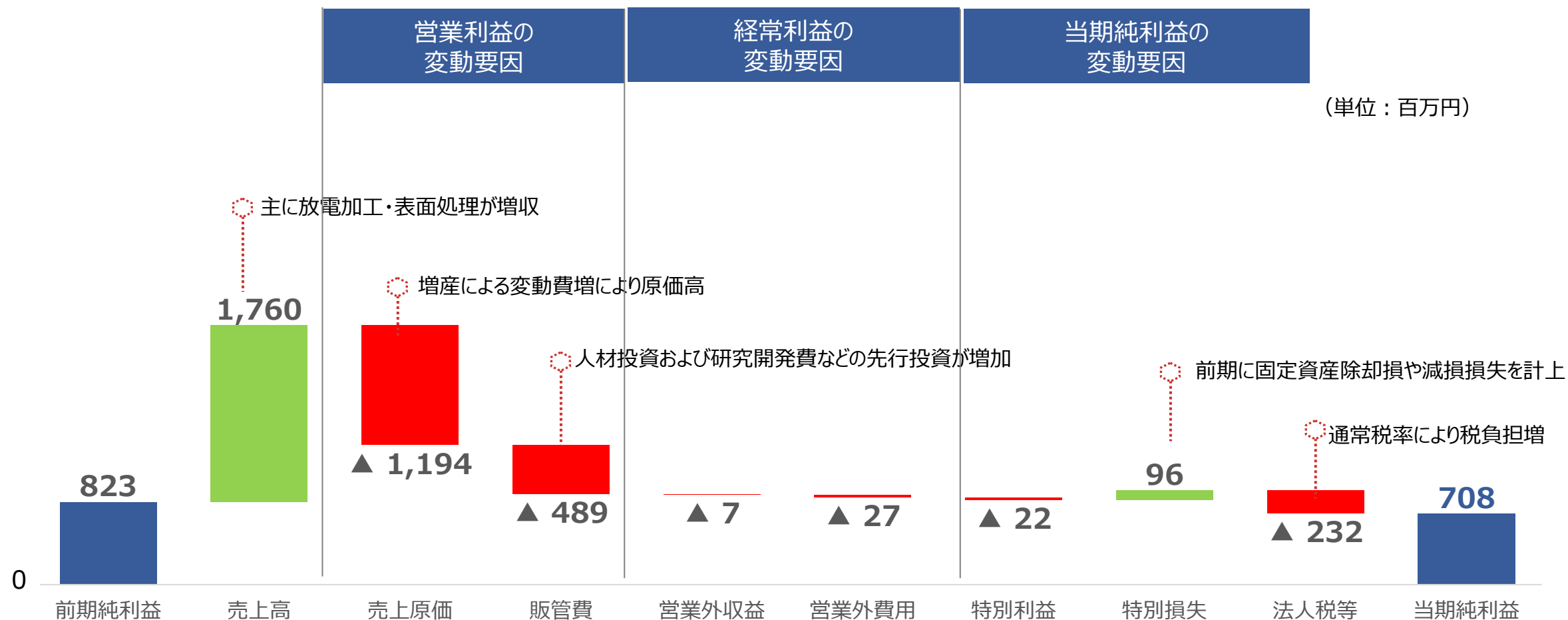
	26年2月期実績	27年2月期予想	前期差	前期比
売上高	14,312	16,073	+1,760	112.3%
営業利益	1,122	1,200	+77	106.9%
経常利益	1,038	1,081	+43	104.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	823	708	※▲114	86.0%

※当期純利益：26年2月期は法人税等の税負担が軽減、27年2月期は通常税率を想定

(単位：百万円)

	27年2月期上期予想	27年2月期下期予想	<参考> 26年2月期上期実績	<参考> 26年2月期下期実績
売上高	7,979	8,093	7,101	7,211
営業利益	542	658	616	506
経常利益	481	600	571	466
親会社株主に帰属する当期純利益	312	395	343	479

2027年2月期 利益の変動要因



※純利益：親会社株主に帰属する当期純利益
 ※法人税他：法人税等および非支配株主に帰属する当期純利益

利益成長のための先行投資を優先

短期的には人件費や減価償却費などが上昇。2027年2月期は前期比で約5億円増加
生産性の向上で売上拡大と利益率UP

投資目的	投資内容	期待効果	収益貢献時期 (予想)
航空機エンジン部品と ガスタービン部品の増産準備	需要拡大を見据えた製造体制の拡充 (採用・定着を高める人材投資)	売上機会の最大化	次期中期 経営計画期間
成長分野の技術革新	生産効率向上、高付加価値化に向け 生産技術への先行投資	原価率の低減	
セキュリティ強化 業務標準化・自動化	情報セキュリティ費用、 基幹システム更新など	リスク最小化 サプライチェーンにおける信頼性向上	
環境エネルギー分野における 新規事業開発	新規事業化に向けたプロジェクト遂行 のための組織再編および市場調査	次の成長ドライバーの創出	中長期

2027年2月期セグメント別概要予想（連結）



		26年2月期 通期	27年2月期 通期予想	前期差 増減	27年2月期 上期予想	27年2月期 下期予想
売上高	放電加工・表面処理	9,906	11,424	+1,517	5,633	5,791
	航空・宇宙	4,030	4,926	+895	2,327	2,599
	交通・輸送	354	372	+17	186	186
	環境・エネルギー	5,521	6,125	+604	3,119	3,006
営業利益		2,025	2,337	312	1,138	1,198
売上高	金型	3,367	3,490	+123	1,756	1,734
	住宅	2,582	2,659	+76	1,332	1,326
	交通・輸送	784	831	+47	424	407
営業利益		297	353	+55	218	134
売上高	機械装置等	1,039	1,158	+118	590	567
	機械設備	710	776	+65	395	380
	交通・輸送	328	381	+53	194	186
営業利益		33	195	+161	53	141
全社費用		▲1,233	▲ 1,685	▲451	▲868	▲816
全社	売上高	14,312	16,073	+1,760	7,979	8,093
	営業利益	1,122	1,200	+77	542	658

放電加工 表面処理

- 航空・宇宙関連は、航空機エンジン部品と防衛装備品が増産対応により増収
- 交通・輸送関連は、自動車産業の成長鈍化を想定し、横ばい
- 環境・エネルギー関連は、ガスタービン部品の量産フェーズへ移行し増収

金型

- 住宅関連は、市場環境は国内向けも海外向けも前期並み、工法改善による生産の効率化を追求
- 交通・輸送関連は、市場環境は前期並み、他分野の営業強化。高付加価値品の安定工法を確立

機械装置等

- 機械設備関連は、中東情勢や米国関税政策等の影響で自動車業界の設備更新需要が低調
プレス機販売は他分野への営業強化。プラスチック資源循環に向けた活動は材料販売を中心に継続
- 交通・輸送関連は、市場環境は前期並み、プレス部品の体制最適化で収益寄与

全社費用

- 航空機エンジン部品とガスタービン部品の採用・定着を高める人材投資
- 生産効率向上、高付加価値化に向け、生産技術へ先行投資
- 新規事業化に向けたプロジェクト遂行のための組織再編および市場調査
- 情報セキュリティ費用、基幹システム更新など

設備投資 / 減価償却費

(単位：百万円)

	26年2月期 実績	27年2月期 計画
設備投資	1,800	2,000
減価償却費	862	1,100

2027年2月期 主な投資案件

- ガスタービン部品の生産能力増強
- セラミックスハニカム押出用金型の生産効率化
- その他事業の定期設備更新
- 情報セキュリティ強化

研究開発費

(単位：百万円)

	26年2月期 実績	27年2月期 計画
研究開発費	31	125

2027年2月期 主な研究開発案件

- 自社リソースを活用し各生産拠点の自動化・省人化の推進
- 放電加工・表面処理のロボット活用および新工法の開発
- 混合溶融技術を活用した素材の開発および開発素材を活用した各種成型技術の検証

株主様に対する利益還元を経営の最重要課題のひとつと考え、現在および今後の事業収益をベースに将来の事業展開や経営体質の強化のために必要な内部留保資金の確保などを勘案し、安定的かつ継続的な利益還元を実施します。

配当金

2026年2月期

期初予想 **15円** → **18円**

2027年2月期予想

20円



HSK 株式会社 **放電精密** 加工研究所

本資料に記載された目標や予測等、将来に関する記述があります。
資料作成時点での当社の判断に基づき作成したものであり、その情報の正確性を保証するものではありません。
また、様々な不確定要素が内在しておりますので、実際の業績や結果とは異なる場合があります。